

# 血液病学

責任者・コーディネーター	血液腫瘍内科分野 伊藤 薫樹 教授		
担当講座・学科（分野）	血液腫瘍内科分野、小児科学講座		
担当教員	伊藤 薫樹 教授、小宅 達郎 准教授、古和田 周吾 講師、佐々木 了政 助教、岡野 良昭 助教、三浦 翔子 助教、吉田 太郎 助教(任期付)、朝倉 賀子 助教(任期付)、張替 秀郎 非常勤講師、照井 康仁 非常勤講師		
対象学年	3	区分・時間数	講義 20コマ 30.0時間
期間	後期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

学生は血液学の基礎的事項を解剖学、組織学、生理学、生化学さらには病理学などですでに履修している。そこで第3学年においては、履修済みの基礎血液学とこれから新たに学習する臨床血液学とを一連の流れとして結び付け、まず基礎血液学に立脚した各種血液疾患の概念と病態生理を理解する。さらに個々の疾患に対して現在行われている治療法とそれに伴う疾患予後、そして治療に関する将来展望までを一貫して理解することで、血液疾患の病態と生理機構を有機的に理解できる。

## ・教育成果（アウトカム）

健常者における血液細胞の種類、機能、動態および病的状況下におけるそれらの変化に関する知識を説明できる。医師として必要な血液学の基本的知識、病態の把握、治療法などの理解を深め、それらに基づいて様々な応用できる思考能力を養う。これらを行う事で、応用可能な診療、つまり自他覚症状、検査所見から病態を推察し、頻度の高い疾患の診断を行い、基本的治療方針について説明できる。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,3,4)

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	すでに学習している血液の組成とその生体作用、血液細胞の正常の産生ならびに分化・成熟過程とそのコントロール機構、各成熟段階の正常血液細胞形態を説明できる。
2	各血液細胞系の検査法とその病態解析への応用、ならびに血液凝固メカニズムを説明できる。
3	主要な血液疾患について自らが各疾患の発症パターン、診断の方法とその根拠を述べ、個々の症例に対する治療戦略を立てることができる。
4	小児と成人における血液疾患個々の概念、疫学、臨床病態、治療法、ならびに予後について疾患各論の立場から理論的に説明できる。
5	現在一般に行われている血液疾患の治療法の中で最も先進的である造血幹細胞移植についての説明できる。

## ・講義場所

講義：東1-C講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	10/1(火)	3	血液腫瘍内科分野	伊藤 薫樹 教授	血液病学総論、造血幹細胞分化	1,2,3
講義	10/1(火)	4	血液腫瘍内科分野	伊藤 薫樹 教授	化学療法/治療	1,2,3
講義	10/15(火)	3	血液腫瘍内科分野	伊藤 薫樹 教授	悪性リンパ腫①	1,2,3,4
講義	10/15(火)	4	血液腫瘍内科分野	伊藤 薫樹 教授	悪性リンパ腫②	1,2,3,4
講義	10/22(火)	3	小児科学講座	吉田 太郎 助教(任期付)	小児血液総論	1,2,3,4
講義	10/22(火)	4	小児科学講座	朝倉 賀子 助教(任期付)	小児血液疾患①	1,2,3,4
講義	11/5(火)	3	血液腫瘍内科分野	小宅 達郎 准教授	血液疾患に合併する感染症・血球貪食症候群	1,2,3,4
講義	11/5(火)	4	血液腫瘍内科分野	張替 秀郎 非常勤講師	赤血球造血と貧血	1,2,3,4
講義	11/12(火)	3	血液腫瘍内科分野	小宅 達郎 准教授	骨髄異形成症候群	1,2,3,4
講義	11/12(火)	4	血液腫瘍内科分野	小宅 達郎 准教授	造血幹細胞移植	1,2,3,4,5
講義	11/19(火)	3	血液腫瘍内科分野	伊藤 薫樹 教授	成人T細胞白血病リンパ腫・慢性リンパ増殖性疾患	1,2,3,4
講義	11/19(火)	4	血液腫瘍内科分野	小宅 達郎 准教授	溶血性貧血と造血不全	1,2,3,4
講義	11/28(木)	4	血液腫瘍内科分野	佐々木 了政 助教	急性リンパ性白血病	1,2,3,4
講義	11/28(木)	5	血液腫瘍内科分野	照井 康仁 非常勤講師	多発性骨髄腫	1,2,3,4
講義	12/4(水)	3	血液腫瘍内科分野	岡野 良昭 助教	急性骨髄性白血病	1,2,3,4
講義	12/4(水)	4	小児科学講座	三浦 翔子 助教	小児の血液疾患②	1,2,3,4
講義	12/10(火)	3	小児科学講座	三浦 翔子 助教	小児の血液疾患③	1,2,3,4
講義	12/10(火)	4	血液腫瘍内科分野	古和田 周吾 講師	血小板減少症（ITP/TTP）と機能異常症	1,2,3,4
講義	12/17(火)	3	血液腫瘍内科分野	古和田 周吾 講師	先天性血栓傾向と播種性血管内凝固症候群	1,2,3,4
講義	12/17(火)	4	血液腫瘍内科分野	村井 一範 非常勤講師	慢性骨髄性白血病	1,2,3,4

・ 教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	新臨床内科学	矢崎義雄 監修	医学書院	2020

・成績評価方法

【総括評価】  
 進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。  
 【形成的評価】  
 小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。  
 講義中の口頭試問および毎時間の講義内容をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。

・特記事項・その他

- ①. 血液病学総論
- ②. 小球性貧血
- ③. 正球性正色素性貧血
- ④. 大球性貧血
- ⑤. 急性白血病
- ⑥. 骨髄異形成症候群
- ⑦. 成人T細胞性リンパ腫・白血病、リンパ性増殖性疾患（慢性リンパ性白血病等）
- ⑧. 造血幹細胞移植・免疫療法
- ⑨. 悪性リンパ腫
- ⑩. 出血傾向（総論）
- ⑪. 血小板異常症
- ⑫. 凝固異常症（播種性血管内凝固症候群等）
- ⑬. 小児の血液疾患総論1（造血器と成長）
- ⑭. 小児の血液疾患総論2（造血器の先天異常）
- ⑮. 小児の血液疾患1（Rh不適合輸血など）
- ⑯. 小児の血液疾患2（先天性の貧血など）
- ⑰. 小児の血液疾患3（小児急性白血病など）
- ⑱. 小児の血液疾患4（先天性免疫不全など）
- ⑲. 多発性骨髄腫
- ⑳. 骨髄増殖性腫瘍（慢性骨髄性白血病を含む）
- ㉑. 赤血球疾患
- ㉒. その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料はWebClassで配信する。

・教育資源

教科書：標準血液病学、三輪血液病学、PC、プロジェクター

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	コンピュータ	1	講義
講義	プロジェクター	1	講義（アトラス）
講義	デスクトップパソコン SENSE-S0P5-R75G-EZ1X		講義
講義	ノートパソコン レッツノートFV4	1	講義